

輝く功績

第75回岐阜新聞大賞受賞者

②

農家の所得増取り組む

ぎふ農業協同組合（JAぎふ）のトップとして地域農業の活性化に取り組む一方、2015年から県農業協同組合中央会（JA岐阜中央会）会長を務める。県内のJAグループのリーダーとして農業振興に貢献してきた。農業従事者の減少、高齢化など農業を取り巻く現状は厳しいが「これから農業者の所得増大を中心に力を注いでいく」と意欲を語る。

岐阜市農業協同組合（現・ぎふ農業協同組合）に入組後の35年間は、徹底して現場にこだわった。「とにかく足で稼ぐと先輩たちに学び、実践した。現場に出

県農業協同組合中央会
代表理事会長

櫻井 宏さん

農業部門



「組合員とのコミュニケーションをしっかりと取っていきたい」と話す櫻井宏さん＝岐阜市司町、JAぎふ本店

向き、組合員の話を直接聞くことを意識してきた。組合員の声が事業に反映された時は喜びが大きかった」と振り返る。「JAは組合員がいて初めて成り立つ。組合員と共に歩み、いかに地域貢献できるか。IT（情報通信技術）やDX（デジタルトランスフォーメーション）の時代で非対面の活動も増えているが、原点回歸し、対面も重視したい」と現場主義を強調する。

最重要テーマに挙げる農業者の所得増大について、は、担い手の経営体への経営支援や新規就農者ら次代の担い手支援のほか、資材の高騰などを受けた対策も強化し、さらに取り組みを進める。「日本の農業が持続するためには、農家が再生産できる適正な価格形成が必要」と訴える。

食料・農業・農村基本法

やぐら・ひるし 1951年生まれ。岐阜市出身。神奈川大卒。74年、岐阜市農業協同組合（現・ぎふ農業協同組合）に入組。常務理事などを経て2012年に代表理事組合長に就任し、21年から代表理事会長。15年から県農業協同組合中央会会長（現・代表理事会長）を務める。県農業再生会議会長などの要職も兼務する。岐阜市在住。73歳。

り、ひいては食料安全保障にもつながる」と力を込める。

さらに「地産地消も進めたい」と意気込む。あえて「地消」が先に来るのは、消費者が求めるものを地域で生産しようという意図を込める。今年から始動する、JAぎふが消費者の声を受け、農産物の独自の栽培基準を設けた「ぎふフル」の取り組みもその一つとし、「消費者の声にも耳を傾けていく」と話す。

改正農協法などを受けてJA岐阜中央会の役割も変わり「JA側も消費者側も意識改革、自己改革が求められている」と受け止める。「引き続き、農業者の所得増大、食と農を通じた地域活性化への貢献、農協経営の効率化や経営基盤の強化に努力していきたい」